

巻頭言

世界の中の英語

町 田 健

名古屋大学ではNUPACEのプログラム内での英語による講義が行われてきたが、昨年からはグローバル30に関係する学部において英語でなされる授業も始まっており、研究だけでなく、教育の面でも英語の持つ重要性が高まりつつある。

英語はインド・ヨーロッパ語族ゲルマン語派に属する言語で、ドイツ語、オランダ語、北欧諸語と近い関係にある。この語族に属する言語の類型は、典型的にはギリシア語、ラテン語、サンスクリット語に代表されるような屈折語である。英語もかつては屈折語としての特徴を強く示していたが、中世の間に名詞や動詞の語形変化が大幅に単純化されて、現代ではどちらかと言えば孤立語として分類した方がいいほどになっている。

屈折語であるラテン語が、ローマ帝国崩壊後ほどなくしてロマンス諸語に分化した後、これらロマンス諸語のほとんどが、英語と同様に形態的な面での単純化の道を進んだ。複雑な語形変化を単純化するような変化が、言語一般が有する傾向であるかどうかは不明であるが、西ヨーロッパの諸言語の多くが、同様の変化を示していることは事実である。

英語が孤立語としての特徴を持つことを最もよく示しているのが、基本語順である。英語の基本語順はSVO（主語＋動詞＋目的語）で、この基本語順は、中国語、タイ語、ベトナム語などの孤立語と同じである。主語は動詞およびその語形を決定する単語、動詞は主語と目的語の間に存在する関係を表し、事態の基本的枠組みを表示する単語、目的語は主語とともに事態を成立させる単語であり、文を構成する最も重要な成分である。したがって、これらの成分を表示する単語の配列順は、個別言語の特性として第一に考慮しなければならないものだと考えてよい。

だとすると、基本語順が孤立語と同様であるのならば、英語を孤立語として分類することに、格別の不合理はないことになる。もちろん、人称代名詞には不完全ながら性・数・格による形態変化があるし、動詞についても、人称・数と時制による形態変化が認められ

る場合もある。これらの特徴は屈折語の示す特徴だから、英語が典型的な孤立語に属するわけではない。

フンボルト流の歴史的類型論に従えば、形態変化の最も単純な孤立語から膠着語を経て、最終的には屈折語へと変化するのが言語の進化の様態だということになるが、英語の類型的変化は、それとは逆の変化を辿ったことになる。ヨーロッパの古典語が言語の最も進化した姿だと見なす人間にとっては、英語の変化は進化ではなく退化だということになる。

言語は誕生した時点で完全であったのだから、いかなる言語についても、それは時代とともに変化するだけであって、進化したか退化したかはありえない。だから、英語も退化していることは決してないし、ある面では進化と見なすことができるような変化もある。

その一例が、時制・アスペクト体系の変化である。現代英語には、過去、現在、未来という基本時制に加えて、過去完了、現在完了、未来完了、さらには過去未来という二次的な時制も備わっている。そしてすべての時制について、全体相（完了相）と部分相（未完了相）の形態的区別をすることができる。このような、ほぼ理想的とも言える時制アスペクト体系を示す言語は、世界でも数少ない。古英語の時代には、未来時制や現在完了時制はなかったし、進行形によるアスペクトの区別もなかったから、英語の時制アスペクト体系の変化は、事態の時間的性質を正確に表現するための言語的手段が整備されるような方向を採用したものだと言える。

名詞が表示する事物の定性を表すための形式である冠詞も、古英語の時代にはなかった。日本語、中国語、ロシア語、ラテン語など、冠詞または定性を表示する形式を持たない言語は多い。しかし、事物が他の同種の事物と明確に区別されるべきなのか、それとも他の同種の事物に置き換えられたとしても、事態の特性に変化が生じないのかは、事物の特性としては重要な要素であるし、この特性を人間は状況を参照することによって理解することができる。冠詞はその理解をさら

に容易にする機能を持つ。したがって、冠詞の登場は、英語による事態伝達の過程を効率化する効果をもたらしたと考えてよい。

言語として英語が優れているということはないにしても、語形変化の単純化は、外国語として英語を学習する場合には、語形変化が複雑な場合よりは、やはり取り組みが容易である。事態の時間的特性や、事物の定性を表示する明示的な形式を持つことは、これらが無い場合より習得は困難になるが、正確な理解の過程

は容易になる。

現在全世界で10億人もの人間が使用し、さらにその領域を広げつつある英語は、幸運なことに、インドやヨーロッパの古典語に比べて学習するのが比較的容易な言語へと変化していた。そうでない場合に普及が妨げられたかどうかは知りようもないが、この幸運は、当分の間英語の拡大にとって有利な材料になるものと推測される。